

主 題：あなたは成長していますか

聖書箇所：コリント人への手紙第一 3章1-9節

子どもをみているとその日々の成長に驚かされます。数日前にできなかったことが今日はもうできるようになっているのを見るとき驚き、励まされる思いがします。同時に、自分の信仰はそのように成長しているだろうかと考えさせられます。聖書はすべてのクリスチャンが霊的に成長することを教えてくれています。あなたは霊的に成長していますか？この問いにあなたはどうか答えられますか？

前回（I コリント2：10-16）学んだことは、聖霊が私たちにどのように働かれるかということでした。

1. 聖霊は私たちに神からの啓示=メッセージを与えてくださいました。

神がどのようなお方で、どのように考えておられるのか、人間とは？罪とは？救いとは？そしてさばきとは？これらのことをみことばによって私たちは知ることができます。

2. 聖霊は私たちにみことばの理解を助けてくださいます。

みことばへの従順と主に喜ばれる者へと導いてくださるのです。

3. 聖霊は私たちにみこころを示してくださいます。

聖書によって私たちがどのように歩むのかが示されますが、私たちの選択において聖霊が私たちに働きをなして下さり、神のみこころを教えてくださいます。

と同時に、私たちに選択があることをパウロは教えてくださいます。神のメッセージを信じるかどうか、みことばに従うかどうか、みこころに従順に生きるかどうか、私たちは信仰をもったから皆が同じように成長するとはかぎりません。選択によって私たちにどのような状態がもたらされるのか、パウロはコリント教会の人たちの現実から「信仰者の成長について」私たちに教えて行ってくれるのです。

信仰者の成長について

I. 私たちは成長すべきなのである 1-4節、6節

「1さて、兄弟たちよ。私は、あなたがたに向かって、御霊に属する人に対するようには話すことができないで、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように話しました。2私はあなたがたには乳を与えて、堅い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。3あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属しているのではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるのではありませんか。4ある人が、「私はパウロにつく。」と言えば、別の人は、「私はアポロに。」と言う。そういうことでは、あなたがたは、ただの人たちではありませんか。」

パウロはコリント教会の人たちの成長を願っていましたが、彼らはまだ幼子でした。成長するのに十分な年数と過程があったはずなのでパウロは期待していましたが、彼らに成長は見られませんでした。彼らは「肉に属して」いたからです。「肉に属する人」とは「キリストにある幼子」です。堅い食物は「…まだ無理だ」とパウロは言います。クリスチャンは成長してゆくはずで、なぜなら、6節に「成長させたのは神です。」とある通り、神が私たちに成長させてくださるからです。しかし、私たちの選択によってどのように成長してゆくかが決まってゆきます。私たちが成長しない原因はどこにあるのでしょうか？周りの人でしょうか？環境でしょうか？否、原因はその人のうちにあるのです。神への応答の仕方によって成長に違いが起こるのです。

では、成長したクリスチャンとはどのような人でしょうか？ また、どのようになれば成長したクリスチャンと言えるのでしょうか？今までできなかったことができるようになることでしょうか？知識が増やされてゆくことでしょうか？いいえ、パウロは言います。3節「あなたがたの間にねたみや争いがある」と、コリント教会の中に問題があるから、それが成長していない証拠だと言うのです。みことばを学び、奉仕も熱心に行っている、礼拝も欠かさず守っている、しかし、パウロはそれは違うと言います。コリント教会では異言やいやしがなされ、人々はそれに関心をもち求めて行きました。また、献金にも熱心でした。コリントの町は繁栄していたからです。しかし、パウロは自分への献金は拒んでいます。奉仕も熱心にし人々の間で御霊の賜物を用いていました。クリスチャンへの迫害もそれほどなかったようです。しかし、彼らの関心は人間的な評価でした。ゆえに、ねたみや争い、分裂が起こっていたのです。成長は何によって測るのでしょうか？パウロはコリント教会の人々を責めています。さばいています。そ

これはパウロが完全であったからではありません。「さばく」ということばはギリシャ語で「判断する、治める」という意味があります。ある物ごとを正しく評価して判断を下すということです。聖書にその例を見ましょう。ルカ12：56, 57「偽善者たち。あなたがたは地や空の現象を見分けることを知りながら、どうして今のこの時代を見分けることができないのですか。57 また、なぜ自分から進んで、何が正しいかを判断しないのですか。」とイエスが群衆に向かって言っているところですが、この「判断しないのですか」が「さばく」ということばです。パウロがコリント教会の人たちに言うことは、正しい動機による判断は良い、しかし、あなたがたの間には「愛」が足りない、ということです。ゆえにパウロはコリント13章で「愛」について教えるのです。1-3節「たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。2 また、たとい私が預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、また、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません。3 また、たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。」。愛がないならすべてはむなししいのです。コリント教会では多くの人が異言を語り、聖書の知識も豊富でした。また、他の人への善行もあったことでしょう。しかし、そこに「愛」がないから人をねたみ、争いが起こるのです。動機がちがっているのです。「愛」とは続いて4-7節「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、6 不正を喜ばずに真理を喜びます。7 すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。」と、これが欠けていたのです。救われた者には御霊の実が結ばれてゆくはずですが。ガラテヤ5：22, 23「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、23 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。」。また、I コリント8：1には「…しかし、知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建てます。」とあります。愛は感情ではなく意志です。私たちは互いに成長してゆくことを求めるべきです。私たちの交わりは互いの徳を養い育てているのでしょうか？ 一人一人に霊的賜物が与えられているのはそのためです。I コリント12：7「しかし、みな益となるために、おのおのに御霊の現われが与えられているのです。」とあるとおりです。イエスは神としての特権を私たちのために犠牲にしてくださいました。しかし、コリント教会の人々の動機は「自分のため」でした。彼らはコリント教会のために送られたパウロやアポロを自分たちのために用いようとしたのです。
⇒私たちは神からの助けによって成長しなければならないのです。

II. そのための必要は与えられている 5-7節

1) 教会(群れ)の教師(リーダー)たち

コリント教会はパウロの第2次伝道旅行のときに生まれた教会です。パウロのあとをアポロが継いで労しました。彼らは神が用いられたしもべです。彼らによって群れを成長させてくださるためです。しかし、人々は背後にあってすべてを司る神を覚えるべきでした。私たちは自分が神に用いられることを願うべきです。自分の弱いところ、改めるべきところを知って謙遜に悔い改めて成長を願うことです。

2) みことばの適用

どのように成長させられているのか、このI コリント3章と同じようなことばが出てくる箇所、ヘブル書5章を見ましょう。5：11-6：2まで、「この方について、私たちは話すべきことをたくさん持っていますが、あなたがたの耳が鈍くなっているため、説き明かすことが困難です。12 あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。13 まだ乳ばかり飲んでいような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。14 しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。6:1 ですから、私たちは、キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を目ざして進もうではありませんか。死んだ行ないからの回心、神に対する信仰、2 きよめの洗いについての教え、手を置く儀式、死者の復活、とこしえのさばきなど基礎的なことを再びやり直したりしないようにしましょう。」と、「乳」というのは「初歩の教え」です。それらは、ここに書かれているように、「死んだ行ない(信仰の伴わない律法の行ない)からの回心、神への信仰、バプテスマについて、按手札について、死者の復活、永遠のさばきなど、いわゆる信仰の入門クラスで学ぶようなことです。それに対して、「堅い食物」とは「義の教え」です。霊的なおとなは経験によって良いものと悪いものを見分ける感覚を訓練された人たちです。神に喜ばれることが何なのかを判断します。私たちは経験によって成長してゆくべきことを教えるのです。どうすることが周りの人を成長させ、また、愛を実践することなのかを経験、訓練によって知っているのです。12節を見ると、ある程度の年数も必要であること

が分かります。そのために私たちは、みことばを適用してゆくことが必要なのです。

3) 聖霊の助け

これは成長のために必要なものです。前回学んだことです。

III. 神があなたを正しく評価してくださる 8-9節

○あなたには選択がある

8-9節「植える者と水を注ぐ者は、一つですが、それぞれ自分自身の働きに従って自分自身の報酬を受けるのです。9 私たちは神の協力者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です。」と、私たちはひとつの目的のために労するけれど、各々に選択があることを教えます。エバ、カインが罪を犯したとき、神は警告はされましたが、罪の行ないを留めることはされませんでした。神は人間に自由意志を与え、それによって選択があることを教えるのです。コロサイ1:28, 29に「私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。29 このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。」とパウロはキリストにある成人について教えています。キリストにある成人として立たせるためには、戒められること、教えられることが必要であると言います。なぜなら、すべての人が成長の過程にあるからです。謙虚に学び、人からの注意を素直に受け入れることです。

○あなたには祝福が約束されている

私たちは成長を願う者へと変えられてゆきます。それは神がその人のうちに働きを成してくださるからです。そして、神からの祝福が与えられます。「自分自身の報酬を受ける」これがパウロの確信です。

どうか、自分自身の問題に気づいて成長のために労してほしい、これがパウロの願いなのです。